

---

# 教育支援センター設置に係る取組 及び不登校支援の現状と課題について

鹿部町教育委員会子ども教育課



北海道の南端・渡島半島の東部  
駒ヶ岳山麓の一角に位置

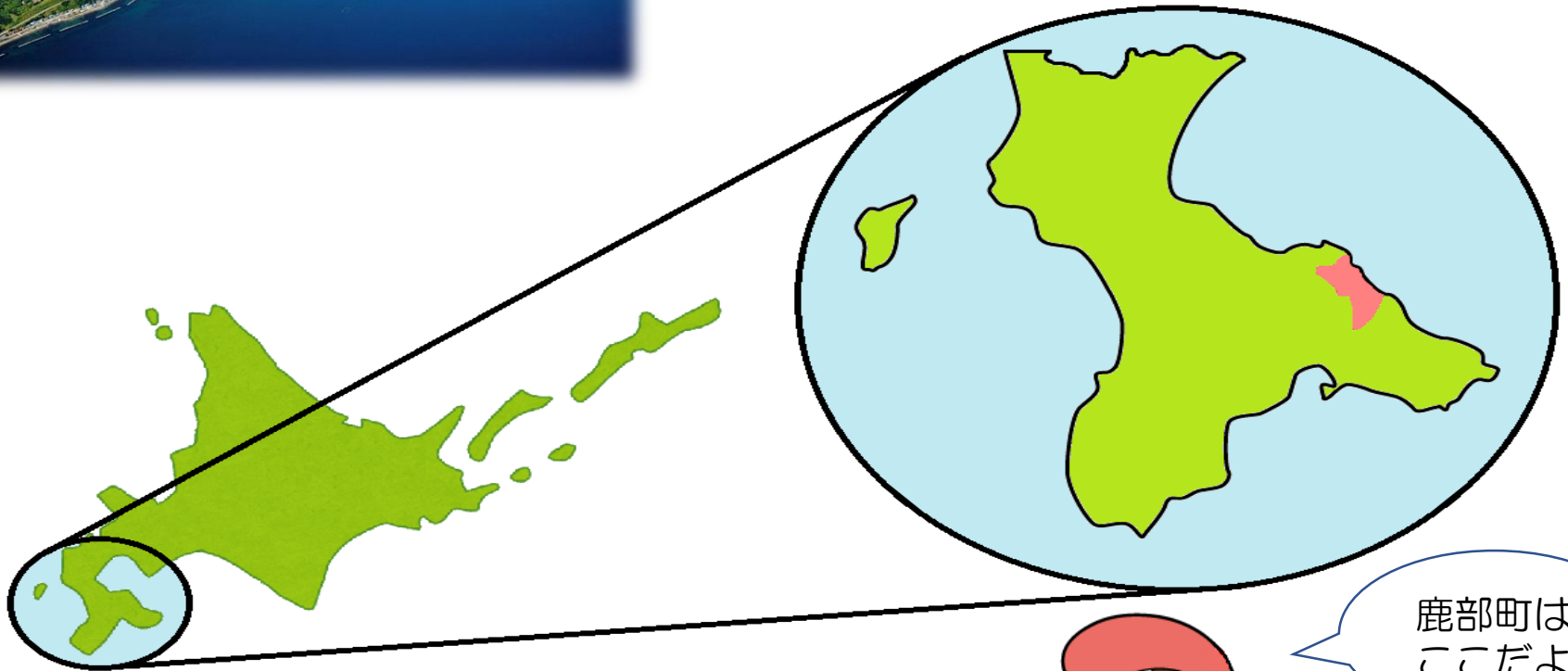


人口：3,569人(R6.1.1)

幼稚園 1園 42名

小学校 1校 126名

中学校 1校 90名



鹿部町は  
ここだよ

# 噴火湾の入り口に位置する 漁業のまち

基幹産業は漁業と水産加工業

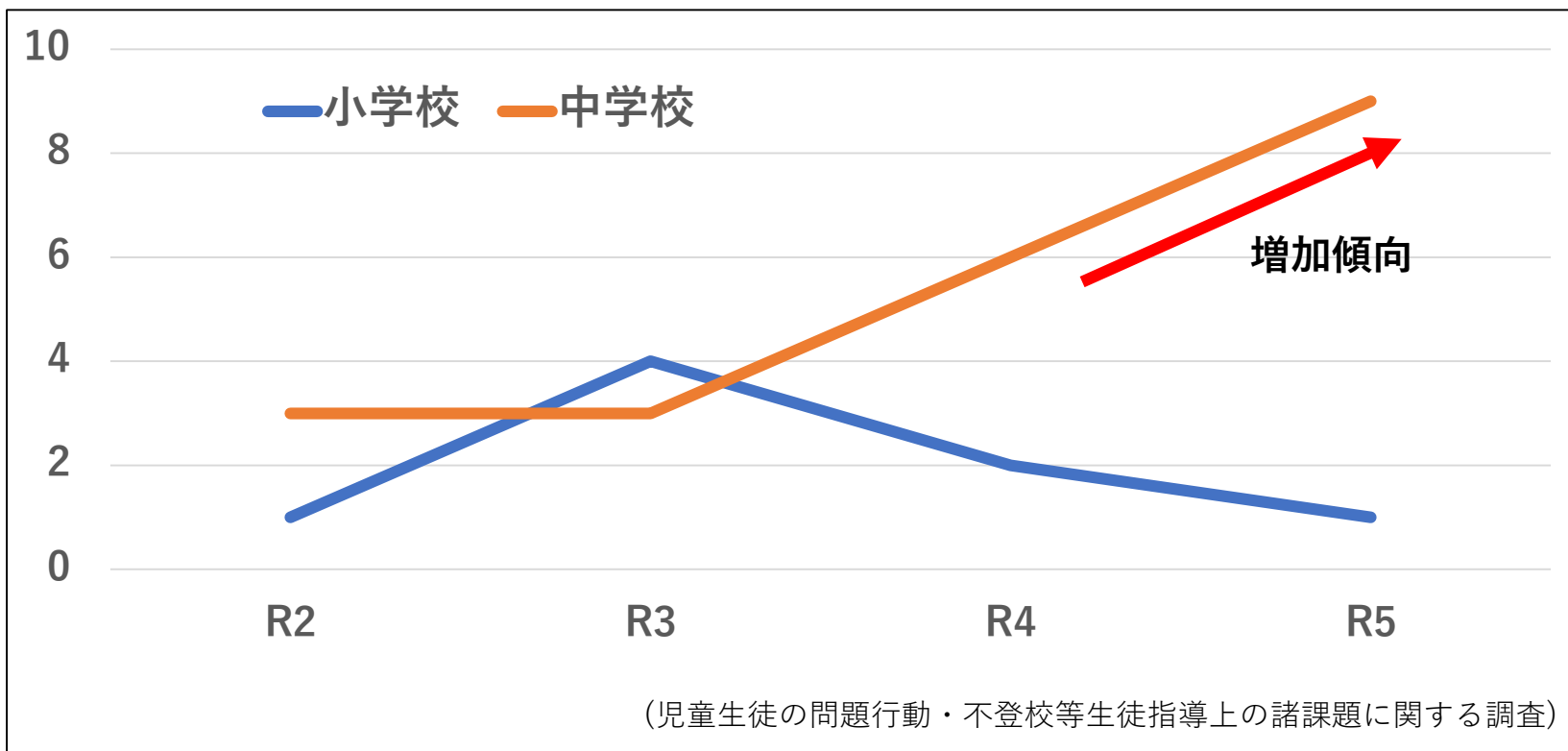
たらこ・ほたて・昆布が特産品



プランクトンが豊富で  
1年を通じて  
様々な魚介類が獲れるよ



# 鹿部町の不登校児童生徒数の推移



## R5年度不登校児童生徒数

- 小学生1名(0.8%)
- 中学生9名(10%)

## 年平均人数

- 小学生が2人
- 中学生が5人

不登校等で悩む児童生徒

保護者の増加

多様な理由による不登校等の

支援を行う学校

教育委員会における教育相談

教育支援の実施



次の一手となる

選択肢や支援体制は

鹿部町にはない。

選択肢や支援体制がない  
今までの鹿部町では  
こんな事例がありました。

友人関係で悩み不登校

教育相談



高校に進学したい  
勉強をしたい

教育相談



公民館の一室を  
校外別室として活用  
(町教委指導主事が指導)

教育相談



家庭訪問による  
「心の状態の把握」

教育相談



今の状況では不安

教育相談



町外へ転校



様々な悩み不登校

教育相談



生徒・保護者の  
コミュニケーション  
不和

教育相談



自傷行為

教育相談



病院との連携  
生徒・保護者支援  
学校との連携

教育相談



生徒の状況・家庭環境  
は良好に

教育相談



生徒・保護者が安心  
できる行き場がない

- 義務教育の段階における  
普通教育に相当する教育の機会  
の確保等に関する法律
- 不登校児童生徒への支援  
に対する基本的な考え方
- 小学校、中学校学習指導要領
- 生徒指導提要

「学校に登校する」という  
結果のみを目標にするのではなく  
児童生徒が自らの進路を  
主体的に捉えて  
社会的に自立すること。

児童生徒・保護者・学校の

多様な思いやニーズ

に応える「場」

学校以外の「場」を  
創設するのは  
想像以上に  
ハードルが高い。



支援センターに何人来るの？

費用対効果ある？

支援センターを作ったら  
不登校はなくなる？

学校には行くもんだ。

学校の先生が家に来て  
連れてったもんだ。

子どもは引っ張ってでも  
学校に連れて行ったもんだ。

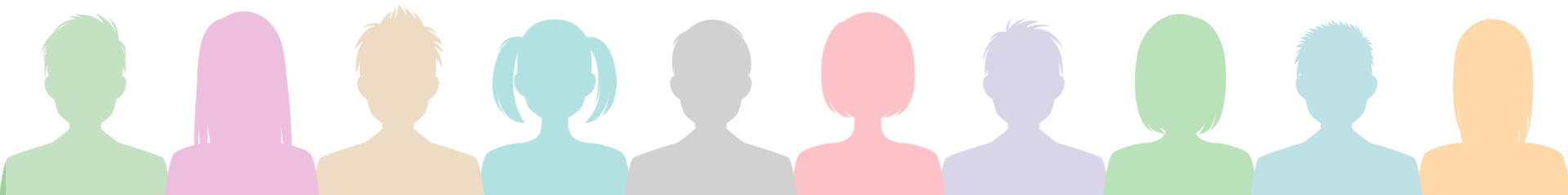
子どもを守るのは大切だけど  
弱い子が育つ。

中学校までではいいけど  
高校行ったらどうするの。



限りある財源を有効に活用し  
最大限の効果が得られる  
鹿部町に求められている  
教育的支援の形は・・・

# 10人10色に対応できる 柔軟性のある教育的支援



「一歩を踏み出せる場」

その一歩が二歩へ

二歩が三歩へ・・・

継続して歩き続けられるよう

1人1人に寄り添った支援

「心の拠り所」

鹿部町教育支援センター

「マイルーム」

# 「マイルーム」

可能性の広がり

支援の構造化

繋がり構築

学校・教員  
との協働

「心の拠り所」として目指す姿 「可能性の広がり」

児童生徒が安心して過ごせる居場所

児童生徒、保護者の不安解消、心の安定

コミュニケーションの円滑化

現在、そして未来への希望



「自立への第一歩」に導く好循環

# 「心の拠り所」として目指す姿 「繋がり構築」

児童生徒、保護者、学校、地域  
カウンセラー、病院、関係機関



支援を結ぶコーディネーター

情報の共有(理解、支援シートの活用)

個別の支援に対するPDCAの確認

学校との専門分野ごとの役割分担

教員の悩み・困り感に対する相談



「チーム鹿部」の土台づくり



# 「心の拠り所」として目指す姿 「支援の構造化」

支援体制の強化

支援・目的の明確化

継続的な支援

専門的知見の活用



いつでも だれでも どこでも  
必要な支援が受けられる体制

## 「マイルーム」の当初予算

- ① 人件費【指導員配置】
- ② 報償費  
【カウンセラー・講師謝礼】
- ③ 需用費【消耗品、食糧費】

## 頼りになる・頼れる存在

指導員は教育委員会で不登校専門の指導主事として任用。

児童生徒・保護者・学校の多様なニーズや思いに応える「頼りになる・頼れる存在」として配置。

児童生徒・保護者に対する教育相談、支援に加え、教員も支援する心強い味方

## 思いを伝える環境を整える

学校にもスクールカウンセラーはいるけれど、時間や回数が限られている。

相談できるのは分かっているけど、学校で相談をしにくかったり、親も行きにくかったりする。

アウトリーチも可能な継続性・安心感のある相談体制づくり【年24回×2時間】

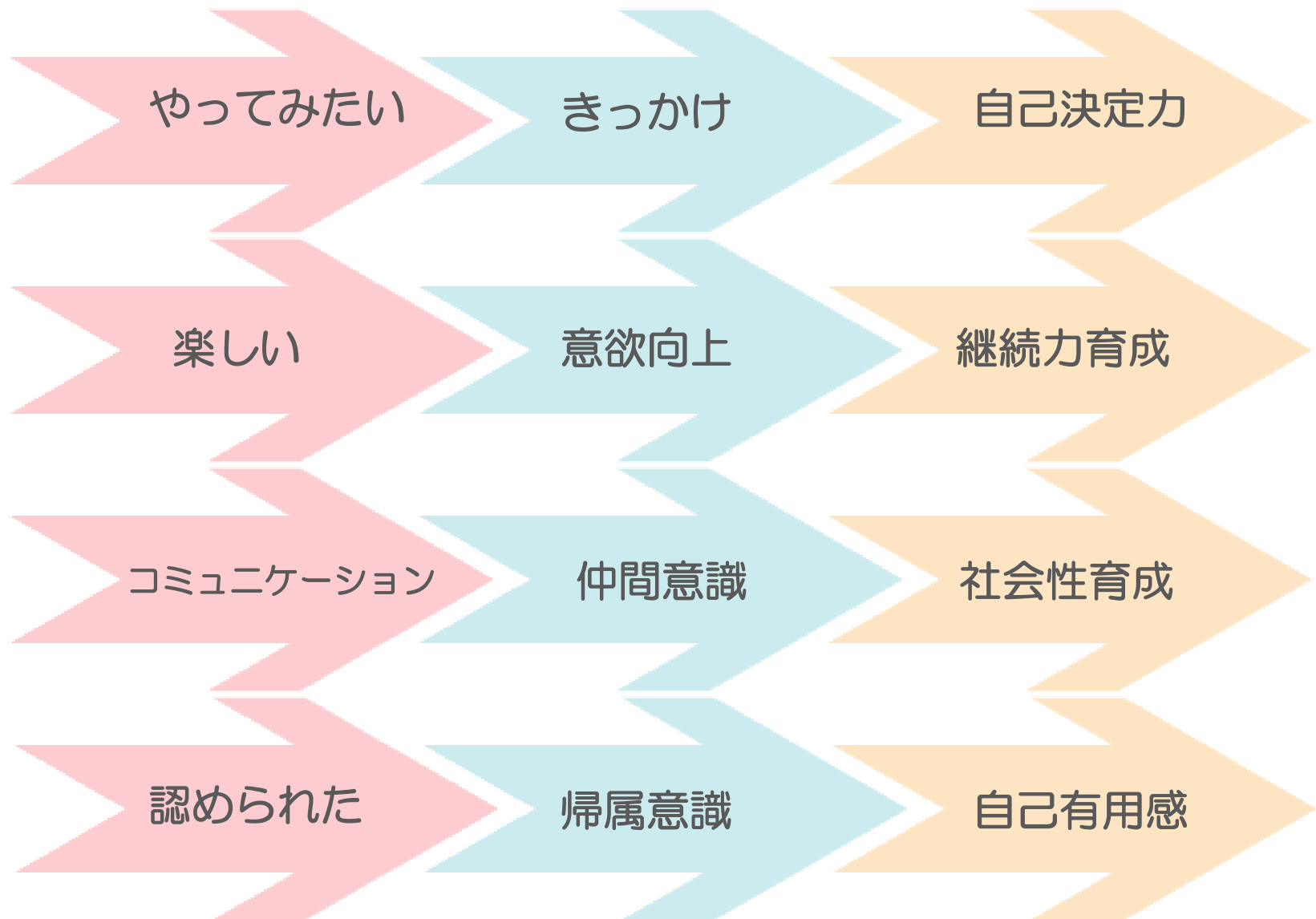
# 好循環を生み出す 地域人材の活用

周りの人の目などが気になり「ふるさと」なのに逆に住みにくさがある。

地域の方とかかわり、自然と声を掛けてくれる「味方」を増やす。

地域の応援団が増える仕組みづくり

# 「好循環を生み出す地域人材の活用」の効果



親だって・・・辛いよ。

自分の子どもで悩み苦しみ傷ついた思いを共有できる関係性が保護者にも必要。

「私達だって辛いよね」「そうだよね、わかる」「私こうした！」って共感し、本音を吐き出せ、意見交流ができる場。

そんな保護者が自然と集まる場づくり

## 学校のまとめ役を配置

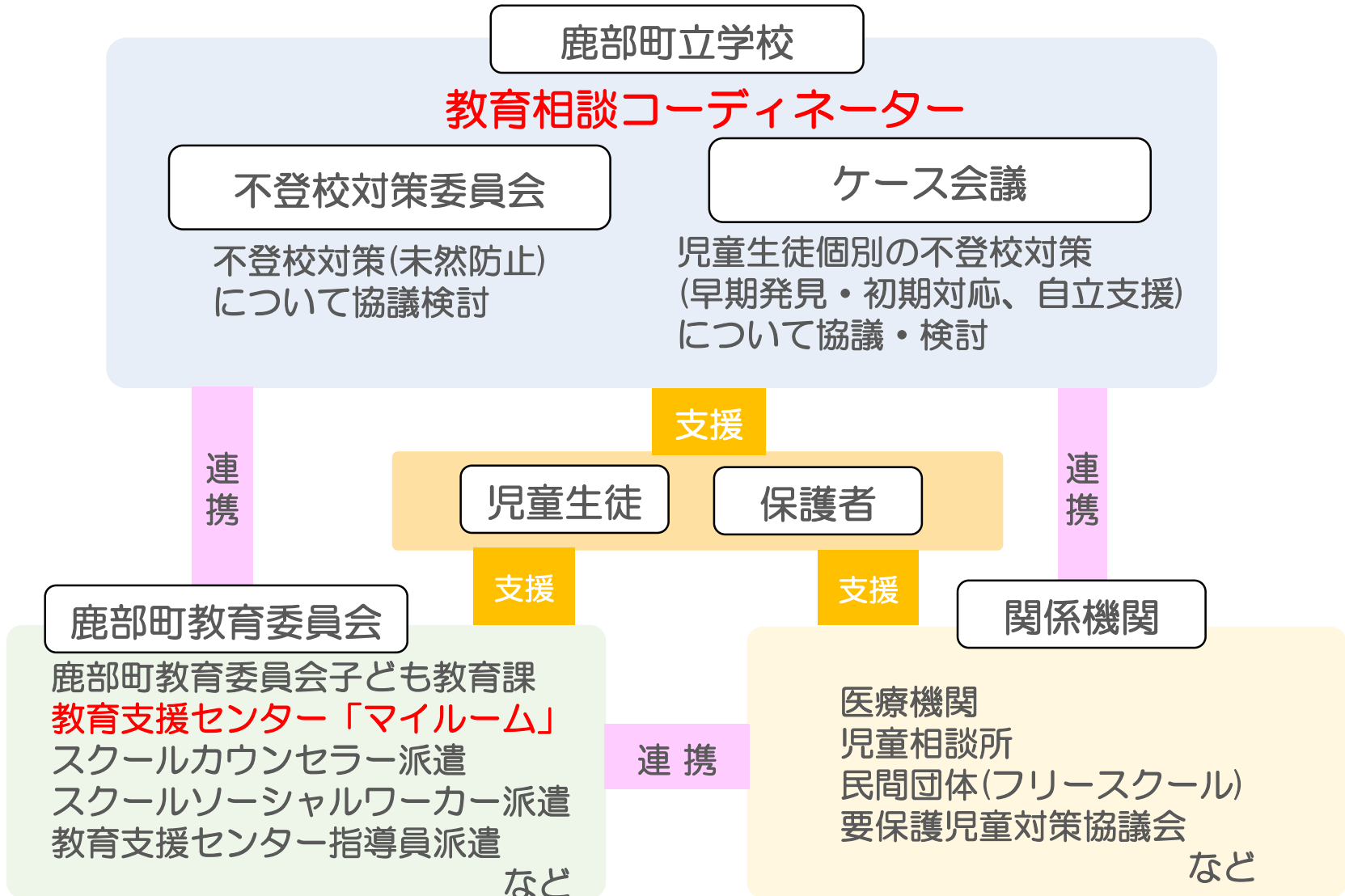
### 教育相談コーディネーター

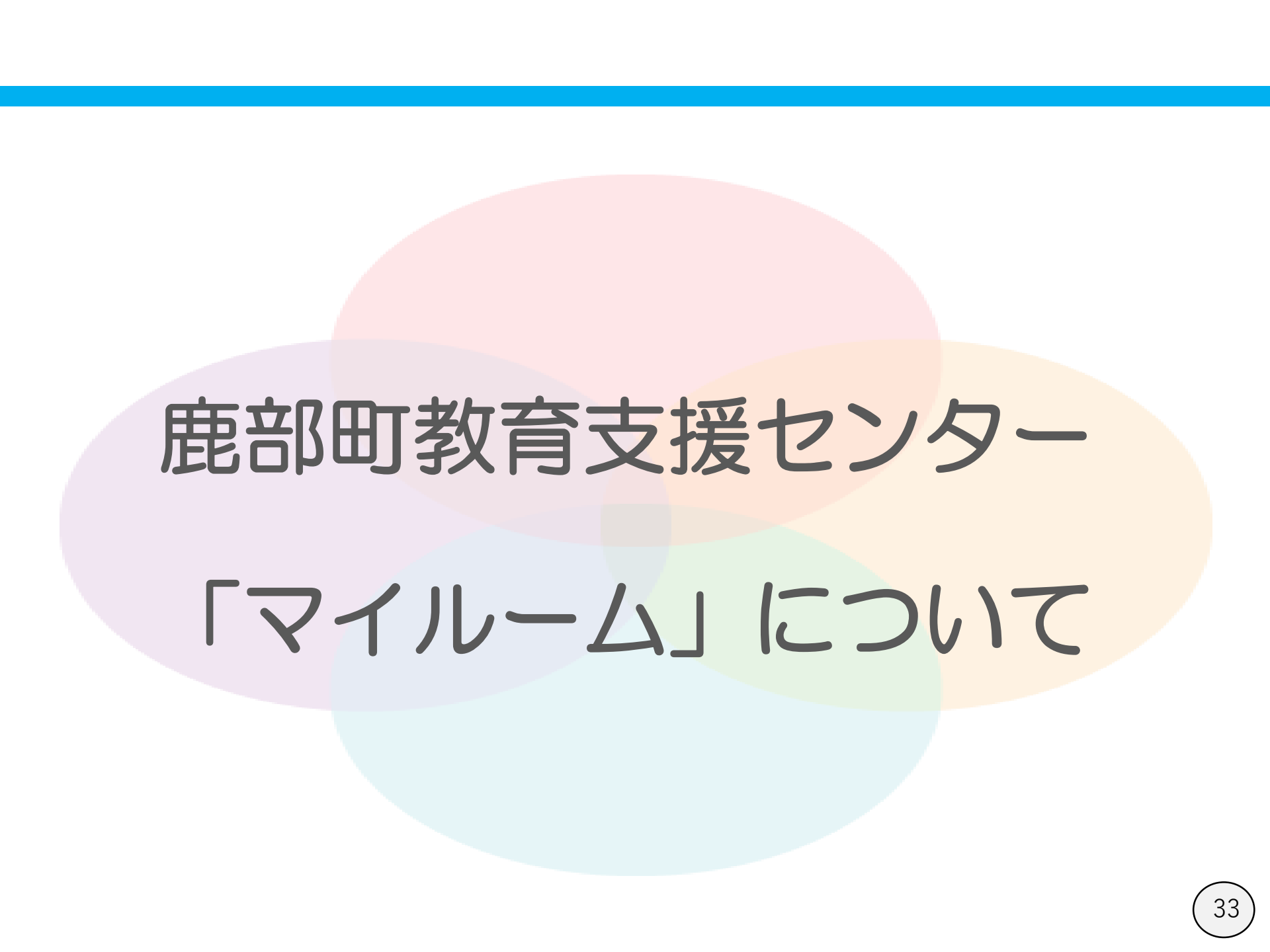
学校の不登校等の状況を把握し、迅速に組織的な対応に繋げる中心的な存在が必要。

その役割を担う教育相談コーディネーターを各学校に位置づけ、役割りの明確化。



# 組織的対応を可能とする支援マップ





鹿部町教育支援センター  
「マイルーム」について

さまざまな理由で学校に行きにくくなっていたり、行けない状況が続いていたりする小学生や中学生が対象。

一人一人の状況に応じて、安心して過ごしながら「**学校復帰を含めた自立への道**」を一緒に考え、支援していく、心の拠り所としての「居場所」です。

## 「マイルーム」の利用人数等

R5年度不登校児童生徒(R6.2.1現在)

児童 1名 生徒 9名

児童生徒・保護者・学校・マイルーム  
で教育相談を実施した人数

児童 1名 生徒 7名

マイルームの利用に繋がった人数

児童 1名 生徒 4名

# 「マイルーム」の場所と開設時間

場所：鹿部中央公民館



開設：月曜日から金曜日  
9：20～15：00



公民館機能に加え、町では、放課後に子ども達が自学自習できる公設の「学び場」を開設しており、学ぶ・活動する・安心できる環境が整っているため場所を併用し有効活用。

## マイルームでの活動 → 社会的自立に繋がる活動

① 基本的な生活習慣の定着

② 基礎学力の補充

③ 夢中になれる環境

④ 触れ合いのある日常

⑤ 相談できる信頼関係

# ① 基本的な生活習慣の定着

	月曜日から金曜日
9:20~ 9:30	朝の会・ふれあい活動
9:30~10:10	自主学習・自主活動
10:20~11:00	自主学習・自主活動
11:10~11:50	自主学習・活動
12:00~13:00	昼食・昼休み・清掃
13:00~13:40	自主学習・SC
13:50~14:30	自主学習・自主活動
14:30~14:50	自主・ふれあい活動
14:50~15:00	夕の会・帰宅

1日の生活の「形」は設定しているけれど  
いつでも利用できる柔軟性のある1日を提供

## ② 基礎学力の補充

### 【自主学習】

自分で課題を決めて  
自分のペースで学習  
テストも受けられる環境





### ③ 夢中になれる環境

## 【自主活動】

各自の趣味や関心に  
応じた活動

例えば・・・  
ギター、カリンバ  
ネイルアート



## ④ 触れ合いのある日常

### 【定期的な活動】

地域人材を活用し  
関わりを深める活動



調理実習

### ジャイロキネシス



## ⑤ 相談できる信頼関係

### 【教育相談】

学習への不安、日常の心配や不安など  
心の変化に寄り添った教育相談の実施



## 目指すは「自己決定」へのアプローチ

マイルームでの過ごし方は児童生徒が「自己決定」し「自己申告」することで決まります。

活動内容を自分が決めて行うことで自分への責任感が生まれます。

でも『過ごし方の選択肢』は  
児童生徒に知らせています！

## ○やりたいことがあります

- 勉強をしたいです
- 趣味の○○をしたいです
- 体を動かしたいです
- 何かを作ってみたいです
- （図書館で）本を読みたいです
- みんなと何かをしたいです

### ○相談したいことがあります

- 話を聞いてほしいです
- 解決したいことがあります
- どうしていいかわからないことがあります
- 助けてほしいです

○私のわがまま聞いてください

- （できるときもあります）
- （できないこともあります）

でも言ってね！

### ○今日は特に考えていません

- 前述の選択肢から考えてみよう
- マイルームで準備していること
  - ⇒パソコンが使えます
  - ⇒学校で使う教科書はあります
  - ⇒学習課題もあります



そして

「マイルーム」に

居るだけでも

いいです

## 【啓発活動】

支援センターから

学校、保護者、児童生徒へ周知

- 広報パンフレットの作成
- 保護者向け教育相談の実施

生徒が通い始めたのは

・・・実は開設から約4か月後

「初めて」を浸透させる難しさ

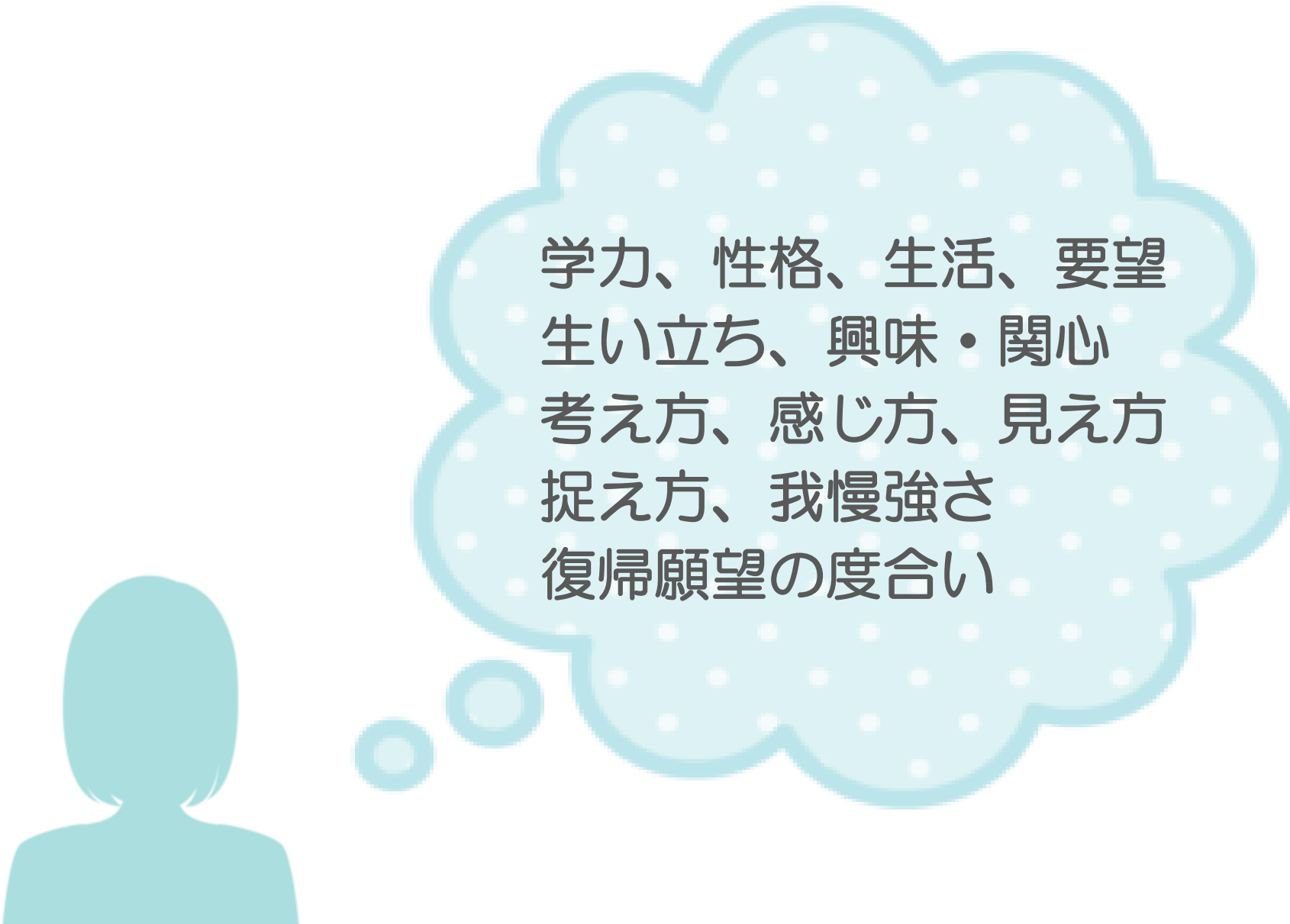
「今日の心の調子はどう？」

「モヤモヤ感はありますか？」

「何か話したい気持ちはある？」

「気持ちがこっちに振れていたら  
明日会いましょう」

# 教育相談(的)な会話を通じた早期の実態把握



学力、性格、生活、要望  
生い立ち、興味・関心  
考え方、感じ方、見え方  
捉え方、我慢強さ  
復帰願望の度合い

## ○学校との連携

- ⇒長期的には業務の効率化に繋がる
- ⇒すべての教師が同じベクトルで動き出すにはある程度の時間が必要

## SCとの連携

- ⇒SCの本務と支援センター指導員の業務の整理



# 学校と児童生徒と保護者とを 繋ぐ「架け橋」に

今後について・・・

鹿部町では誰も支援センターを活用したことはない。先輩もいないから支援センターの口コミなどもない。

実は、支援センターがない町でしか勤務経験のない、知っていても繋がったことがない教員も多い。

支援センターが日常に溶け込むには「今まで」以上に工夫が必要。



不登校になってしまったから支援センターに繋がる場合が多い。

長期欠席の児童生徒が再度立ち上がる気力は想像以上に必要。

気になった時から早期に「チーム鹿部」で関わりをもち、個に応じた柔軟な支援を迅速に構築できる体制づくり。

# 縦列型組織的連携から 並列型組織的連携へ



個別対応

別室 保健室

家庭

教育支援センター

気づいた時が  
支援の始まり

# 不登校対策委員会連絡会議

## 【委員構成】

- 管理職(教頭)
- 教育相談コーディネーター
- スクールカウンセラー
- スクールソーシャルワーカー
- マイルーム指導員

【回数】 年6回

## ∞ を生み出す「繋がり」の創造

支援センターの利用人数が少なく、  
同年代の友達などを作りにくい環境。

小さい町の支援センターが単独でできる  
活動等は予算・規模で限界がある。

支援センター同士がICT等を活用し、  
その輪を広めていくことで「仲間」も  
「活動」も広がり、可能性は ∞ に。



仲間づくり & 活動づくり

全道の皆さん、  
仲間づくり、活動づくり  
ICT等を活用して  
一緒に考えてみませんか？

ご清聴  
ありがとうございます  
ございました